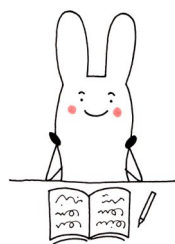


# 「そのだ」の地域連携 vol.4

園田学園女子大学  
園田学園女子大学短期大学部

2015（平成27）年10月

# 「MeGだ」の地域連携Vol.4 目次



地知の拠点整備事業PDR	4	そのだの高大連携	16
ごあいさつ	5	教育のICT化 パソコン教室	16
地域のパートナー まちの保健室	6	総合生涯学習センターの事業	17
兵庫県赤十字血液センターとの連携	7	図書館	18
健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について	8	近松研究所	19
ソフトボール部 栄養管理	9	地域日本語教育への提言	20
尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践	10	地域と取り組む防災教育	21
地域に向けた手洗い指導の拠点の構築	11	歴史の旅 ① 尼崎	22
地域で求められる養護教諭養成の在り方	11	子育て・子育て講座	23
庄下川の親水性の向上	12	地域と大学の連携・協働による子ども・子育て支援の課題解決	24
1人一台タブレット端末実現に向けたICT活用尼崎モデルの作成	13	シグマソサエティクラブわらへうた研究会	25
0歳～10歳が共に生きる「のびのびタウン」	14	七夕まつり	25
小学校外国語活動実習	15	尼崎市交流協会との協力的事業	26
神戸市学生スクールサポーター制度	15	地域に支えられる本学の国際交流	26
		第3回世界身体障害者野球日本大会応援(但馬ドーム)	27

幼児の体力測定・陸上競技部	28
ソフトボール	28
テニス	29
チアリーディング部の地域での活動	29
梅 スイーツ	30
尼崎公設地方卸売市場	30
Super Sweets 2014 in Amagasaki	31
尼薩のスイーツ開発委員会	31
尼芋奉納祭	32
尼崎浄水場特別開放イベント	33
みんなのサマーセミナー	34
大学ＣＯＣ事業における政策提言発表会	35
尼崎商工会議所との連携	36
塚ロバル舞台イベント	36
第2回 未来を拓く自治体協働まちづくりの「尼崎」研究集会	37

第28回ひょうご女性未来会議「あまがさき	37
----------------------	----

「播州こしひかり飯見の郷」米袋デザイン	38
---------------------	----

猪名寺万葉の森・佐璞丘再生プロジェクト	38
---------------------	----

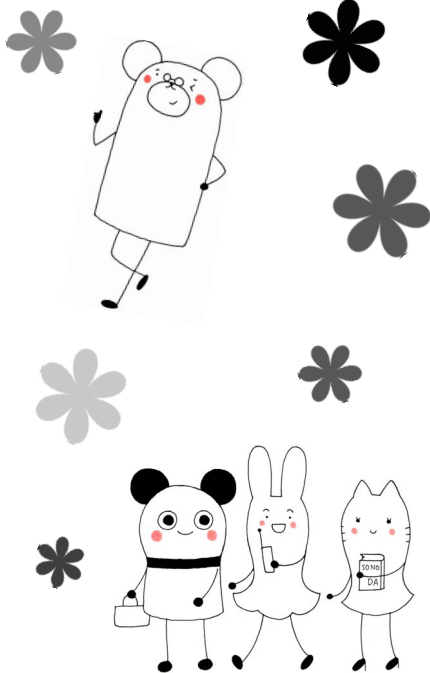
震災への取り組み	39
----------	----

つなGAI	39
-------	----

学生の声	40
------	----

経験値評価システムの活用	42
--------------	----

編集後記	43
------	----



# 〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム

建学の精神「捨我精進」にもとづき、多面的に地域課題に向き合うことができる社会に有用な人材の育成

尼崎市の地域課題

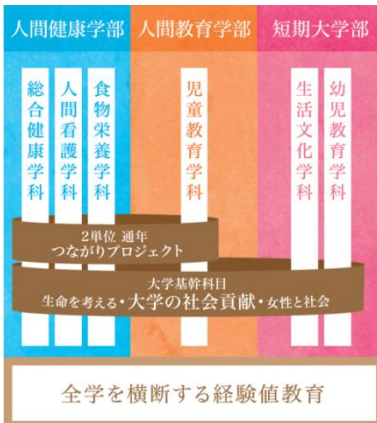


## 研究

## 教育

## 社会貢献

**まちづくり解剖学**  
教職員・学生・自治体  
職員・地域住民等が  
集まり、地域社会の  
課題を共有し、意見  
交換する定期的な  
研究会



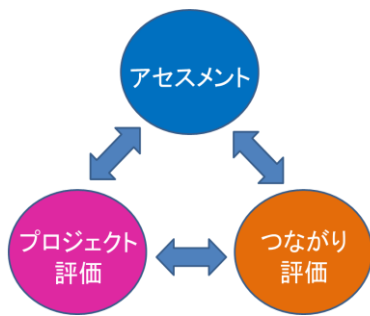
**まちの支援員**  
まちづくりに携わる  
地域人材の育成

**まちの相談室**  
学生主体の運営  
大学と地域の交流



「知識」を「知恵」に変える循環型の「経験値教育」大学と地域による新しい評価システムを導入

**経験値評価システム**  
本学の特色である、「知識」を「知恵」に変える循環型の「経験値教育」を実質的なものとするために、新しい評価システムを導入。地域においてそれだけの「経験」を積み、人間力を高めることができたかということを生が実感できる指標の策定



**経験値教育**  
「経験値」とは、地域での学びを通して、教室で学んだ理論的なことが証明されたり、納得・実感することで、理論と実践がむすびつき、さらに次の学びへと発展させる、「知識」を「知恵」へと変える力のことを指します。



# 経験値教育と地域創生

地域連携推進機構 副機構長 大江篤



平成二十五年度に文部科学省の「地域の拠点整備事業」に採択された「地域と大学をつなぐ経験値教育プログラム」は平成二十七年間に中間年を迎えます。このプログラムでは、本学の特徴である循環型の「経験値教育」を実質的なものとするため、学生が地域においてこれだけの「経験」を積み、人間力を高めることができたかということや学生が実感できる新しい評価システムを構築してきました。その「つながり評価」は、地域における不定型な活動のなかで

試行錯誤しながら行動した軌跡を記録していくものです。学生が地域活動を終えるとその都度、活動に参加する自分自身の目的、活動内容、活動の意義、工夫した点を記入し、受け入れているいただいた地域の方から評価とコメントをいただいた学習を深め、主体性を育むことができるものと考えています。

平成二十八年度には、地知の拠点整備事業(大学COO事業)の核となる「つながりプロジェクト」が開講されます。大学二年次の約三百七十名の学生が、尼崎市をフィールドに必修科目の演習に取り組みます。この「学び」を「CBL (Community Based Learning)」とします。CBLのコンセプトとは、

地域共同体だけではなく、多様な集団を指します。学生が地域で学ぶことにより、学部学科の枠を超えた学生間のつながり(Community)ができることにも、受け入れていただいた地域の方々の間で新たなつながり(Community)が生まれ、形成され、地域が活性化されることが期待できます。この取り組みによって、本学が地域でかけがえのない存在となり、地知の拠点として地域創生の一翼を担うことができると考えています。

本誌は園田学園女子大学の地域連携のへいまへとこれからはまとめたものです。本学の経験値教育プログラムをご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

# 地域連携を柱にして

## 大学としての使命を果たす

学長

地域連携推進機構 機構長 川島明子



「学校教育は地域社会の協力があって初めて成り立つ。学内だけに閉じこもってできるのではない。広く開放して地域住民と同じ呼吸をしなければならぬ」という地域社会に開かれた大学を目指す試みは、昭和五十四年以降、数々の施策と教育改革によって本学で着実に具現化されてきています。昭和六十三年には塚口の町全体をキャンパスと考え、そ

の中心に本学があり、街の学びの責務を担うという未来への指針を示した「キャンパスシティー塚口」構想が策定されています。この構想の趣旨は、平成二十五年、本学が尼崎市の学びの中心として、地域活性化と創生の核となる大学であると認められて文部科学省の選定を受けた「地(知)の拠点整備事業(大学COO事業)」にしっかりと継承されています。

現在本学は、建学の精神「捨我精進」を基盤として大学の理念である「他者と支えあう人間の育成」に沿った人材を育てていくこと、そして「知識」を「知恵」に変える経験値教育の手法により、地学生や地域社会の人々が地域で学び、地

域に学び、地域へ学びの還元を行い、その成果として学び、輝き続ける社会の実現への貢献をめざしています。

今後さらに地域社会との連携を柱にし、大学としての使命を果たすための努力を積み重ねていきたいと思っております。その結果、建学の精神、大学の理念である「高い専門性と深い教養を備え、社会で輝き続ける女性の育成」がさらに醸成されていくと信じています。

この冊子は本学の地域連携の取り組みをご紹介します。ぜひともご覧いただき、本学へのご理解とともに、今後のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



## 地域のパートナー まちの保健室

担当部署：人間健康学部 人間看護学科  
連 携 先：尼崎市・医師会・地域包括支援センター・看護協会など

「まちの保健室」は、地域の人々の健康への疑問、不安や悩みを気軽に相談できる看護提供システムです。人間看護学科では大学を拠点としながら、地域へ出向いて「まちの保健室」を開催しています。地域団体・組織と連携、協働しながら地元密着型の気軽な健康相談の場として「まちの保健室」を提供し、さらに教育環境として活用しています。住民や地域組織・団体とパートナーシップを深めることで、ヘルスプロモーションの推進と地域力の向上をめざしています。

看護の社会化にこえ、住民の健康生活支援の場として、さらに現代の社会情勢に対応する看護職育成のために、平成十八年六月より園田キャンパス「まちの保健室」を開設しました。尼崎市の地域特性を考慮し、地域組織と協働しながら住民のニ

ズに合わせた活動を展開しています。

大学を拠点とした定例の「まちの保健室」を週に一回開催し、多くの住民の方々に利用していただいています。総合健康学科や食物栄養学科とのコラボもはじまり、食から健康を考えるミニ講座なども行っています。また、地域住民や団体の依頼にこえ、「出前型」として尼崎市内で広く活動しています。

特に出前型は、尼崎市や尼崎市医師会、兵庫県看護協会、尼崎北フライオンズクラブ、尼崎市地域包括支援センター、地域推進委員会などと協働で展開し、マタニティセミナーから子育て相談、健康相談、介護予防教室まで、あらゆるライフサイクルの方々の健康づくりをめざしています。平成二十六年度は8回の出前型を開催し、地域組織や団体との連携

を深めています。

これからもさまざまな地域組織・団体との連携・協働により、地域住民の健康生活を支援する環境づくりを健康を支援するネットワークづくりを行い、ヘルスプロモーションの推進・地域力の向上をめざします。

※参加費無料。

※お申し込み不要。

※動脈年齢の測定のみ予約制。

《予約・お問い合わせ先》

園田学園女子大学  
人間健康学部人間看護学科  
電話 06(6429)93004



今後の情報や詳細は  
園田学園女子大学HP  
<http://www.sonoda-u.ac.jp/>  
まちの保健室(上記アイコン)をクリック

# 兵庫県赤十字血液センターとの連携



担当部署：学生支援部学生課・インターアクトクラブ  
連携先：塚口さんさんタウン 献血ルーム

本学インターアクトクラブは、昭和五十八年九月に尼崎北ロータリークラブ二十周年記念事業として、社会奉仕と国際理解を目的に設立されました。



結成後三年目からは、剣道部の学生が中心となって活動するようになり、平成二十一年七月には永年の献血活動が認められ、厚生労働大臣感謝状贈呈団体として表彰されております。例年二年次生が六月に引退となるため、基本的には一年次生六名ほどの活動になってまいります。

が、「塚口さんさんタウン献血ルーム」のスタッフと共に学内で献血推進活動としてPRチラシやティッシュの配布を行っています。

これまでの大きな活動としては、毎年十月の学園祭（けやき祭）に、兵庫県赤十字血液センターから献血車を招いて献血活動を行っていただきます。学生や教職員、地域の皆様のご協力を得て、近年は安定した献血数を残しております。

一時は献血者数の減少による影響で、献血車での活動も中断していましたが、平成二十三年から活動を再開しました。献血受付数で、八十一名（平成二十三年）、七十七名（平成二十四年）、七十六名（平成二十五年）、そして昨年（平成二十六年）という大勢の方々にご協力いただくことができ、大きな目標を達成することが出来ました。

今後は、引き続き安定した献血のご協力を得るために、地域の皆様への告知や「塚口さんさんタウン献血ルーム」のスタッフと共に、学校の正門前での献血推進活動を行う予定です。また、献血推進活動以外にも、本年五月に行いました尼崎北警察署との「チカン撲滅キャンペーン」など地域社会へのボランティア活動にも力を入れていきたいと思っています。



日本赤十字社 兵庫県赤十字血液センター  
<http://www.hyogo.bc.jrc.or.jp/place/tsukaguchi/>

# 健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について

～食の健康協力店の利用者側からみえてきた現状と問題点について～

担当部署：人間健康学部 食物栄養学科  
連携先：尼崎市社会福祉協議会



今年度は、食の健康協力店を利用する側の認知度を本学の学生が中心となり、各施設に向いて対象者に直接聞き取りを実施することにより、学生の経験値を高め、さらに尼崎の地域差や世代間差による特徴や課題を見つけ出し、次なる対策を検討する事を目的としました。



調査結果は予想以上に尼崎市民の食の健康協力店に対する認知度が低い状況にあり、この結果を踏まえ今後は、食の健康協力店が得意とするヘルシーメニューの提供や料理の栄養成分表示、地域の素材を用いた料理のフェアの開催を積極的に推進することが求められます。そのため地

域で開催されるイベントの一環として、食の健康協力店をめぐるスタンプ

調査期間：平成26年9月～12月

対象：尼崎市内居住者1,082名（86%）、市外居住者 173名（14%）、

性別：男性223名、女性1,032名

各世代間：本学の運動クラブ部員20代 140名、市役所に所属している者

の内訳 30～40代 336名、ヘルパー40～50代 137名、

老人福祉センター利用者60～70代 642名

調査内容：食の健康協力店の認知度、利用度、認知後の利用の把握等

## アンケート調査結果（抜粋）：

食の健康協力店の利用の決め手は、健康のため

市役所 50.6%、学生 47.1%、ヘルパー 42.3%、福祉センター利用者 26.3%

食の健康協力店を知っていたことが利用につながっている状況

市役所 45.5%、学生 32.1%、福祉センター利用者 23.9%、ヘルパー 20.0%

ラーリーの展開を図り、食の健康協力店は地域住民にとってかけがえない店舗になることを目指す必要があると考えられます。

次年度から食物栄養学科で設ける地域栄養学を活用し今まで以上に尼崎市での食の健康協力店の認知度を高め、店舗側及び地域住民が共に活性化をして、世代間を超えた食育推進活動が出来るように図っていききたいと思えます。





# ソフトボール部 栄養管理

担当部署：人間健康学部 食物栄養学科  
連携先：三重県熊野市



選手ひとりひとりの

笑顔のために・・・

今年度で五年目を迎えた本学ソフトボール部の冬季熊野合宿は、スポーツ栄養学Ⅰの実践実習として、平成二十六年十二月二十五日（木）～二十七日（土）の二泊三日の日程でサポートを実施いたしました。

Pic. I



食べられない献立「豚肉の生姜焼き」を  
食べられる献立「蒸し鶏」に変更

大学で学んだ臨床栄養学の知識を生かし、体調不良者やアレルギー体質をもっている選手に刺激物や油の制限をするため、食べられない料理（豚肉の生姜焼き）から食べられる料理（蒸し鶏）に変更を行いました（Pic. I）。

Pic. II



次に提供したメニューのポイントとして、クリスマスでも、選手に対して、美味しく楽しい食事を提供出来る。このことをモットーとして、

今回、学生が考案したメニューは「オムライス・ポテトサラダ・鶏の照り焼き・ポトフ・牛乳寒天」です（Pic. II）。その栄養価は、エネルギー：1,395kcal、たんぱく質：57.7gでした。メニューの見栄の工夫としては、クリスマスを意識し、ポテトサラダでクリスマスツリーとサンタクロースを作成しました。

さらにグラウンドでは、午前中の練習の疲労回復を図るために、昼食時に「炊き出しの豆腐ハンバーグ・かぼちゃの味噌汁・ささみの梅和え・小松菜と厚揚げの煮浸し」に加え、午後、練習時に糖質の補給として、「どら焼き」や「みたらし団子」なども日替わりで提供いたしました。

試合や練習時期に日々変わる選手の体調を考慮し、臨機応変に食事対応が出来るスポーツ栄養士の養成を目指しています。

# 尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践

担当部署：人間健康学部 人間看護学科・総合健康学科

連携先：尼崎市社会福祉協議会・尼崎市スポーツ振興事業団・

健康医療財団市民健康開発センター ハーティ21・地域活動支援センター Reverb



「尼崎をもっと元気にしたい」という熱い思いをもつ人々（五団体）が集まり、おとなも子どもも楽しめて、かつ筋力向上につながるオリジナル音楽とオリジナル運動を考案しました。

そのオリジナル音楽はCDになりました。メイン曲となる「PAPER PLANE」は、歌いながら運動できる、未来へ希望を託した曲になっています。



オリジナル運動は、約一時間のプログラムで、リズム運動と筋力運動の二種類があります。筋力運動は耐久性のあるセラバンドを用いて筋肉を強化します。

平成二十七年一月から九月まで、尼崎市老人福祉センターにおいて、地域の高齢者、スタッフ、本学の学

生がその運動を実施し、その効果測定を行って

います。運動開始から三ヶ月後には、運動に参加された尼崎市

内在住の六十五歳以上の高齢者一〇二人中、一〇〇の方に体重減少、体脂肪減少、筋肉量増加、骨量増加、基礎代謝量増加のいずれか、またはすべてに効果あり、または現状維持という結果ができました。

そして、本活動が地域の高齢者と学生の交流の場になることで、学生は、「人と人のつながりの大切さ」を実感しています。また、地域の高齢者の多くから、「楽しい」「これからもこの運動を続けたい」というご希望をいただいています。



現在、運動システムやこの運動のDVDの新たな作成に関して、五団体が連携して、検討を重ねています。また、地区祭り（大庄地区、園田地区、立花地区、小田地区）、本学園祭や「尼崎市スポーツフェスティバル」において、この運動に取り組んでおられる地域の高齢者と本学の学生、五団体が合同で、運動の一部をご紹介いたします。皆様もぜひ一緒に運動して盛り上がりましょう。

今後の活動・催しの詳細は、左記のHPでご覧いただけます。



[paperplane.lovepop.jp/](http://paperplane.lovepop.jp/)

## 地域で求められる 養護教諭養成の在り方

担当部署：人間健康学部 総合健康学科  
連 携 先：神戸市小学校・  
兵庫県高等学校・尼崎市小学校等



## 地域に向けた 手洗い指導の拠点の構築

担当部署：人間健康学部・人間教育学部  
連 携 先：尼崎6公民館



本研究で着目しているのは、養護教諭の先生方の指導の下で行なう「保健室ボランティア」です。さらに「地域連携」という課題設定を行い、総合健康学科における「地域に求められる養護教諭」養成の在り方を検討していきたいと考えています。「保健室ボランティア」に参加した三名の学生の活動内容を紹介します。内容としては健康診断が多

毎年流行するインフルエンザやノロウイルス感染症では、自宅での療養がほとんどです。そのため、尼崎市内での大流行を防ぐためには、地域住民が手洗いを励行することが重要と考えられます。そこで、本プロジェクトは地域住民への「手洗い講習会」を開催し、地域住民に対して、手洗いの重要性や有効性を広め、感染対策に繋げる

ことを目的としています。その結果、現時点までで、「手洗い講習会」の内容について検証ができました。

今年度は九月から十一月にかけて、尼崎市内にある六公民館で、「手洗い講習会」を開催します。蛍光ローションを使用した手洗いの実験をもう一回予定です。本イベントについては、それぞれの公民館で

いのですが、来室児童の対応などもあります。

- \* 学生A — 内科検診（一日間）  
歯科検診（二日間）
- \* 学生B — 内科検診（一日間）  
視力検査（一日間）  
歯科検診（一日間）  
来室児童対応（二日間）
- \* 学生C — 身体測定（半日間）  
聴力検査（半日間）  
視力検査（一日間）  
内科検診（一日間）  
歯科検診（二日間）  
健康診断事後措置・来室

ポスター、チラシにより参加を募集しています。



平成二十八年度  
学生による「手洗い講習会」  
開催計画中

### 児童対応（一日間）

本研究は今年度開始したばかりですが、神戸市立小学校等の保健室ボランティアは以前から行っていました。今年度、保健室ボランティアの成果と課題を研究的視点でまとめるために、学生や、受け入れてくださった養護教諭の先生方を対象にインタビューを行いました。

# 庄下川の親水性の向上

担当部署：人間健康学部 総合健康学科

連携先：尼崎市・医師会・地域包括支援センター・看護協会など



平成二十二年に「庄下川アメニティプロジェクト」を立ち上げて以来、様々な形で庄下川の親水性向上に取り組んできました。清掃活動をはじめ、水質検査、河川環境を利用したプログラムの構築実施や生物調査など、ゼミの学生が中心になって活動しています。



地域の子どもたちに、庄下川環境をより深く知ってもらうことを目的とし、小動物や植物の調査を行い、生き物の小冊子を作成しています。近隣地域の保育所などで利用させていただいています。

昨年度の「尼崎市民まつり」では、庄下川に住む生き物の展示を行ったところ、子どもたちが、とても興味をもってくれました。



庄下川本学周辺の基礎的な資料として、毎週一回の水質調査で〈DO〉〈BOD〉〈pH〉などを測定するとともに、植物や小動物の観察を行っています。また、生物の生態や河川の水質などの季節変化を観察するとともに、年に一回は庄下川の水中生物の観察も行っています。

これらを活動のための基礎的資料とし、庄下川環境を利用した親水プログラムを近隣の幼稚園や小学校に提供しています。プログラムを通じて、庄下川に生息する動植物に関心を持ってもらい、身近な庄下川の環

境を守っていける人を育てたいと考えます。

継続的な水質調査やいまままでに行ったいくつかの親水プログラムについては、毎年のように河川関係の学会で学生による発表を行っています。

また昨年からは、尼崎市立衛生研究所と共同で、水質調査などを実施しています。今後の活動について、今秋に、近隣の幼稚園児対象に親水プログラムを実施することを予定しています。





# 1人一台タブレット端末実現に向けた ICT活用尼崎モデルの作成

担当部署：人間健康学部

連携先：尼崎市立教育総合センター・尼崎市立名和小学校



総務省の「フューチャースクール推進事業」や文部科学省の「学びのイノベーション事業」を契機に、小・中学校でどのように1人一台タブレット端末を授業で活用するかが、少しずつ見えてきました。大阪市などの各自治体も独自にモデル校を抽出して、1人一台のタブレット端末導入と「わかりやすい授業」「学力向上」の効果検証をはじめていきます。

尼崎市では、これからの着手にな

ります。そこで本研究は、将来、1人一台のタブレット端末導入に向けた足がかりとなるように、タブレット端末導入による効果を明らかにしようと考えました。

すべての学年でタブレット端末を活用した授業を校内で公開しました。小学一年生では国語科「言葉の学習」に、小学三年生では算数科「三角形」に、また小学六年生では国語科「俳句」などに導入し、実践を積み重ねました。実践授業に参加した小学校教員を目指す学生にとっては、自分なりのタブレット端末の活用方法をイメージできる良い機会となりました。

重ねた実践を整理、二年間の活動まとめとして「タブレット端末活用にチャレンジ」と題したリーフレットを作成しました。このリーフレットは、尼崎市内すべての小・中

学校教職員に配付されました。

平成二十七年中に尼崎市内のすべての小学校に数十台のタブレット端末が導入される予定です。今後は、中学校へと研究対象を移してタブレット端末を導入し、授業でのタブレット端末の活用実践と効果測定を進めていきたいと考えています。

その結果、生徒にとって「よりわかりやすい授業」の実現に、少しでも近づけることを願っています。



# 0歳～100歳が共に生きる「のびのびタウン」

-地域資源を活かした安心・安全な街づくり-



担当部署：人間教育学部 児童教育学科 大江ゼミ・人間健康学部 地域看護学ゼミ  
連携先：杭瀬小学校学習センター運営委員会・阪神南泉民センター

尼崎市立杭瀬小学校との連携は、平成二十三年に遡ります。小学校、PTA、児童指導員、学校開放委員、教育委員会社会教育課等が月に一回杭瀬小学校区学習センター運営会議を開催し、地域の課題を共有するとともに大学の取り組みも受け止めていただいています。平成二十六年には、阪神南泉民センターの都市型ツーリズムの採択をうけ、「街を好きな人に出会おうとその街が好きになる」都市型ツーリズムを検討しました。尼崎市杭瀬小学校をコミュニティの核である学習センターと位置付け、機能させることによって、すべての世代が生き生きと暮らすことのできるまちづくりを提案しました。

平成二十七年七月二十六日(土)杭瀬EAST商店街の夏のイベントで、子ども向けのゲームと健康相談をし、地域の方々と交流をもちました。八月二十五日・二十六日に「く

いせ探検隊」を実施しました。児童とまち歩きをし、地域の魅力や危険な箇所の発見するワークシヨップです。最後の児童の発表には、多くの先生方やPTAの方にも参加していただきました。十月九日まちづくり解剖学、十月十二日尼崎市民祭り、十月十八日けやき祭、キッズフェスティバルで中間報告をすることもに、取り組み内容を多くの市民の方々にも聞いていただきました。大江ゼミでは、「めぐってポンー尼崎スタンプラリー」を企画し、コンソーシアムひょうご神戸のプロジェクトブランコンペで兵庫県知事特別賞を受賞。その内容は、十二月二十一日の阪神つながり交流祭においても報告しました。さらに、COC大学による政策提言発表会では、スタンプラリーを小学校三年生の授業内で取り組めるように指導案を作成し、提案を行いました。同時にスタンプラリー用のカード、スタンプ

帳、地図を作成し、平成二十七年三月二十七日にスタンプラリーを実施しました。この時には、老人会の協力を得て、世代間の交流をすることができました。六月十七日に、杭瀬小学校三年生の人数分の教材として、贈呈式を行いました。



## 神戸市学生スクール サポーター制度

担当部署：教学支援部教務課  
資格支援室・教職支援学習室  
連携先：神戸市教育委員会



## 小学校外国語活動実習

担当部署：人間教育学部 児童教育学科  
連携先：近隣小学校こどもクラブ



児童教育学科では、小学校教員養成開始に伴い、小学校英語に関する地域連携活動を行っています。平成二十二、二十三、二十四年度は、学外から広く参加者を呼びかけ「小学校英語セミナー」を開催しました。

くわえて平成二十三年度には、小学校英語関連科目を履修する学生達が塚口小学校こどもクラブに出向き、ハロウィン活動出前授業を行いました。また平成二十四年度からは、本学科の選択科目である「国内英語実践」の授業の一環として、学生が近隣の小学校こどもクラブに向き、外国語(英語)活動実習を行っ

教員志望の学生が神戸市教育委員会のスクールサポーターとして登録をしています。その後、配置された神戸市内の小中学校で週に一日、四時間から八時間程度、授業の指導補助や学級活動・特別活動などの指導補助を行なっています。

### 活動人数(延べ人数)

平成二十五年度は一名  
平成二十六年度は十二名  
平成二十七年度は十三名

ています。

昨年度は、尼崎北小学校子どもクラブの児童を対象に外国語(英語)活動実習を二回行いました。実習の内容は次の通りです。

実習生：本学科三年次生 四名

対象児童：一～三年生 二十名

テーマ：一回目 What sport do you like? 二回目 Where is the station?

子どもたちは、最初は慣れない英語に戸惑いを見せながらも、元気づけ合いに、英語の唄遊び、絵本、英語表現や語彙を使つてのゲーム活

### 参加した学生の感想

「子どもたちと積極的に関わることの大切さ」や「指導することの難しさや喜び」などを学ぶことができました。

教職を目指すうえで、毎週子どもたちと直接関わる機会を得られることは、学生のスキルアップとネットワークづくりに役立ち、実習や就職先での実践に活かされていると思います。

動やインタビュ活動を楽しんでくれました。

この実習は、尼崎市こども青少年局児童課ならびにこどもクラブの協力を得て実現しています。児童課とこどもクラブの皆様にも感謝いたします。これからも毎年継続できますようお願いいたします。



## 教育のICT化 パソコン教室

担当部署：情報教育センター  
連携先：尼崎市立身体障害者福祉センター  
上ノ島総合センター



## そのだの高大連携

担当部署：教学支援部学術研究支援課・  
入試広報部・企画運営部  
連携先：兵庫県・京都府・  
阪神間各市教育委員会  
兵庫県下・大阪府下・各高等学校



高等学校教育と大学教育の連携に資するために平成十五年より、兵庫県教育委員会、兵庫県下、大阪府下の高等学校と連携し、eラーニングや本学での模擬授業の他、本学の教員が高等学校に向いて授業を行う出前講座を行っています。

eラーニングは、本学の授業科目を高大連携科目として一部開放しており、毎年四月～翌年一月の十ヶ

大学の社会貢献と研究や教育の社会還元の一環として、平成十二年頃から、公民館主催のパソコン教室を開催しています。また各公民館や尼崎市立身体障害者福祉センターから講座の開催要望があり、それを受けて講座を開講しています。

講座の規模は、主催者によって異なりますが、受講者は十から四十名の間で実施しています。講座の補助は、本学の学生S.A.・スチューデント・アドバイザーが、毎回三から五名ほどが参加しています。参加者からは非常に好評を得ています。

講座の内容は、主催者によって異

月間、もしくは、十月～翌年一月の四ヶ月間課題に取り組んでもらいます。平成二十六年度は二百四十三名の生徒が受講しました。

また同法人の高等学校については、学年に応じた大学体験講座を実施しています。一年生には九十分間の大学の授業を体験してもらい、進学について理解を深めることを目的とした講座を、二年生には年間を通

なります。

パソコンの初心者向け講座では、パソコンの電源の入れ方をはじめとして、キーボード、マウスの操作方法、デジカメの操作、またワード・パワーポイントなど、ごく基本的な操作方法を学びます。また専門的な講座では、デジカメで撮影した画像の加工、画像処理ソフトを利用した加工を行うとともに、タブレットを実際に操作して体感できる講習など、主催者の要望に合わせた講座の内容で開催しています。

情報教育センターとしては、今後も引き続き、各講座の開催を実施す

して各学問分野に興味を持ってもらうことを目的とした講座を行っています。



受講者の感想

「学科ごとの具体的な勉強内容がわかり、自分の将来について考える機会になった」

るとともに、地域貢献としての施設提供を行う予定です。



講座の受講生募集情報は、主催している各公民館や尼崎市立身体障害者福祉センターで発信されています。また市報にも掲載されています。





# 総合生涯学習センターの事業

担当部署：総合生涯学習センター

連携先：尼崎市教育委員会後援・国立民族学博物館・大阪府文化課

地域貢献の一環として、本学は昭和五十四年に公開講座を開始し、生涯学習に取り組んできました。現在では県内各地域や近隣府県にまで受講者が広がり、年間延べ二千人以上がキャンパスを利用し、学習しています。



（特定の分野を百二十時間以上学習した場合に証明書が交付される）の対象プロ

公開講座からさらに学びを深めたいというニーズに応え、平成十四年に三年制の「シニア専修コース」として文学歴史学科・国際文化学科を、平成二十一年から情報学科を開設しました。これは学校教育法施行規則に規定された「履修証明制度

プログラムでもあります。また、校内の食堂や図書館を利用できることも魅力となっており、本学は生涯学習の先駆的大学との評価を得ています。

## ◆公開講座

文学・歴史・教養・芸術・語学・キャリアアップ講座や、特別講座・夏休みの子ども講座等あり。平成二十六年度は八十八講座を開講。千人以上の受講生が、千三百八十九講座を登録。また「公開講座開設三十五周年記念講演会」では、「生涯学習川柳コンテスト」を行った。



## ◆シニア専修コース

平成二十六年度は文学歴史学科・国際文化学科・情報学科三百十八人が専門的な内容を含めたカリキュラムで学び、そのうち約百八十名が卒業後も研究生となっている。



アンケートなどを参考に講座の改善を重ねる一方、eラーニング等の新規企画も検討しています。平成二十七年年度より阪急塚口駅前にてサテライト教室で英会話を中心とした講座を開講しています。また他大学との講師交流や県外自治体との講座提携等も企画しています。

シニア専修コースではカリキュラムを改編し、そのうち「園田・民博連携講座」を公開講座としても開放し、専門的な内容の講座をより多くの方が受講可能となりました。

ホームページも見易く改装して、その中では公開講座やシニアの授業風景を動画で見ることが出来ます。

活動の情報発信は、公開講座案内ちらし（三月・八月新聞折込、図書館等公共施設）、シニア専修コース入学案内パンフレット、ホームページで行っております。

# 図書館

担当部署：図書館



図書館では、平成十二年四月から①尼崎市在住・在勤の十八歳以上の男女、②尼崎市内の高校に通学する女子を対象に一般開放を開始し、翌年度からは対象地域を伊丹市、西宮市にも拡げました。以前から尼崎市立図書館と提携を結んでおり、市立図書館に申し込めば所蔵資料をお貸しするサービスを実施していましたが、もっと簡単に利用できる方法をとという地域の方々の要望にこたえて開始したものです。登録者は平成二十六年年度までで述べ一〇〇人に及び、学生の大多数も好意的に受け止めています(アンケート結果)。



他大学の地域開放と大きく異なる

のは、利用者レポート(利用目的や利用後の研究成果の報告)等を課すことは一切ない、貸出期間等の利用条件は本学学生とほぼ同じ注、という点にあり、夏休みなど、利用者がほとんど一般開放の方、というのも珍しくありません。

静かな館内で公立図書館にはない専門書を読みふけている方もいらっしゃいます。



(注)選書ツアー参加や購入希望リストの提出などにより、「読みたい本」を本学図書館で読むことが、学生と同じ条件でできます。

本学学生や地域開放利用者の満足を得られるサービスの安定的提供を今後も進めますが、喫緊の課題である、対象地域をどのあたりまで拡げるか、については、単に利用者増を図るのではなく、きめ細かいサービス提供の可能な規模を見極めつつ、希望者の声を真摯に受け止めながら検討を進めていきたいと思っています。



図書館の情報はHP、チラシ、ポスター、デジタルサイネージ(学内電子掲示板)などにて

# 近松研究所

担当部署：近松研究所

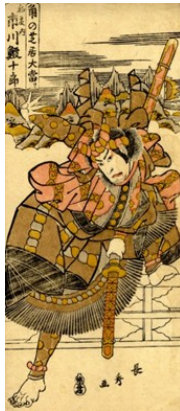
連携先：尼崎市・近松記念館・鯖江市教育委員会・日本芸術文化振興会・大阪市ほか



近松研究所は、地域文化の向上に寄与するために、尼崎ゆかりの近松門左衛門およびその周辺の演劇や芸能に関する総合的な研究を推進し、その研究成果を専門研究者だけでなく、広く社会に提供することを目的に平成元年に設置された附置研究所です。その目的遂行のために、四半世紀以上にわたって活動を続けており、関連事業への参加・協力はもちろんですが、新聞やテレビ等のマスコミの取材や個人の問い合わせ・要望等にも丁寧に応答し、関西地区における専門研究所として一定の評価をいただいております。

年度一回の「近松研究所紀要」の発行（研究成果の報告ならびに公開）、前期・後期開講の「近松講

座」の主催（研究成果の報告ならびに公開、地域文化振興）、主として研究所資料を使用した「特別展示」（研究所内開催、随時平成二十七年度は、『国性爺合戦』初演三百年を記念して「『国性爺合戦』の浮世絵」展を開催、研究成果の公開、地域文化振興）、閲覧室の開放（事前予約不要、月曜から金曜、午前十時～午後五時、地域文化振興）、関係団体主催の講演・講座等への講師派遣や各種委員会委員など、様々な活動を行っております。



現在まで続けてきた活動の成果は多種多様で簡単には纏められませんが、たくさん成果を複合してそれをこれからの活動に生かし、いかな

る状況下であっても近松研究所設立の目的を果たすことに努め、とりわけ専門研究の成果をもって地域文化振興に寄与できるように努めたいと思います。

情報発信はHP、チラシ、ポスター、デジタルサイネージ（学内電子掲示板、尼崎市報（随時）等）で行っております。





# 地域日本語教育への提言

## —ボランティア育成の実践と課題—

担当部署：人間健康学部

連携先：尼崎市国際交流協会をはじめとする日本語教室6ヶ所



昨今、外国人居住者の増加に伴い自治体では多文化共生の取組みが課題となつていきます。尼崎市内では市民ボランティアによって日本語教室が運営されており市民同士としての活発な交流が行われています。

そのなかで、国際交流や海外の文化に興味のある学生を中心に、日本語教室を訪問させていただき、日本語を教えるお手伝いをしています。

学生達は地元の方の方が自主的に多文化共生の取組みに参加され、活躍されている現場を拝見し同市民として誇らしく、有意義に年令を重ねる事への参考になったと感想を述べ、また地域の方は、若い世代が関心を持ってくれて頼もしいと言つて



くださっています。

昨春秋、尼崎国際交流協会のイベントに参加させていただき、多様な国籍の方々との交流をすることができました。また、今年一月、七月に武庫公民館日本語教室に訪問し、イギリスやアメリカ、ベトナムの方に日本語を教えるお手伝いをさせていただきました。

本学公開講座「日本語を学ぼう・教えよう」を修了された方が市国際交流協会、武庫公民館、大庄公民館、小田公民館などで日本語ボランティアとして活躍されており、お招きを受けて各日本語学級の学習成果発表会や交流パーティーに参加させ



ていただきました。修了生の方の成長していきいきとした姿に胸がたれました。

日本語教室のボランティアの方々へのアンケート調査を通じて、地域の日本語

教育の問題点が明らかになってきました。ニーズを分析し公開講座「日本語を学ぼう・教えよう」の講座内容に反映し、より地域の日本語教育を充実させるお手伝いをしたいと思つています。くわえて、国際交流

や異文化理解、外国語などに興味のある学生を中心に、地域の日本語教室に参加し、グローバルな経験値を高めていきたいと思つています。簡単な日本語の教え方や日本文化の説明の方法についても、経験を積んでいきたいと思つています。





## 地域と取り組む防災教育

担当部署：人間健康学部 人間看護学科

連携先：尼崎市社会福祉協議会大庄支部・園田東地区社会福祉連絡協議会  
尼崎市中央西地域包括支援センター 等



東日本大震災や火山活動、豪雨災害など全国各地で毎年大規模災害が起こっています。自然災害発生時を想定した日頃からの防災活動は、安心・安全のまちづくりのなかでも特に重要視されています。大学として学生・教職員が一体となった取り組みを行うことは大学の地域貢献としても取り組みむべき重要課題であると思います。

そこで本プロジェクトでは、まず市の取り組みを「知る」ため、防災講座への参加から始めました。また熱心に防災活動に取り組んでいる自治会長さんや高齢者の支援者の方々にインタビューし、地域力を高めている強みや課題について分析をしました。その結果を踏まえ、地域の防災カフェで報告を行い、グループワークを実施しました。参加者からは、高齢化が進展するなか、高齢者数が多くなる屋間に災害が発生した場合、助け合いながらの避難は

可能かという不安が聞かれました。また、地域内の高校生や大学生に対する期待も語られました。

次に、地域との「協働」として、地区の避難訓練の企画から参加し、当日は学生もボランティア活動を行いました。現在、高齢者支援者の防災力向上に施設とともに取り組み、防災ゲームを用いた参加型の研修を実施しています。また、本学の学生・教職員の防災意識を把握するためにアンケートを実施しました。アンケート結果は、本学の「地域貢献」に関するベースライン値として提示するとともに、今後の避難訓練や災害時ボランティアのあり方を検討する際に活用



する予定です。

今後は、住民や高齢者支援者を対象とした地域防災力向上のための研修会を実施し、人間力・生活力・市民力を養成するためのツール開発・提案まで行なっていきたいと考えています。

研修会の案内などは、協働先の施設の方々と相談し、施設主体で行なっています。



# 歴史の旅 in 尼崎

担当部署：地域連携推進機構  
連携先：歴史の旅in尼崎実行委員会



平成二十四年からスタートした「歴史の旅in尼崎」は年一回の講義で概略を、三回の「まち歩き」を実施し、四年間で主要な地域を巡り踏破し、それをまとめます。コースは北から南へ、東から西へと設定しており、四年間継続して、開催することによって、尼崎発展の歴史の流れを感じる事ができます。最終目標を平成二十八年、尼崎市の市制百周年に合わせています。

尼崎市を知るには、まちを歩くこと、そこから見える文化、歴史、人、生活を探訪することが有効です。そこでコースは、いつもとは違った風景を専門家からの解説を交えて見る事ができるよう設定されています。

見ているようで、見ていなかったこと、新しい発見と再認識が一般市民だけでなく、メンバーや学生ボラ

ンティアで参加している高校生のなかに残ります。

参加した大学生には、大学がある尼崎市を知る良い機会となっております。特に他府県から来る学生は、尼崎市がこれほど歴史や文化にあふれた地域であることに驚いています。

これらの活動は将来、自信を持って尼崎を紹介できる人材の育成にもつながると信じています。またなかに歩くことで、自分たちの専門分野がどこに、どのように求められているかを知ることにもつながります。

さらに、一般市民の方たちと一緒に歩くことで、将来自分たちが交流を持つことになる大人や高齢者とのコミュニケーションが出来る場ともなるでしょう。

また、様々な専門分野の学生や高校生と歩くことで、違った視点を理解することが出来ると考えます。

平成二十四年…猪名寺廃寺、田能遺跡、猪名川自然林、戸ノ内橋、遊女塚・神崎渡し跡、浄光寺、寺江亭跡、杭瀬市場。

平成二十五年…御園古墳・岡院石棺、塚口寺内町、近松記念館、中国街道、残念さん、大物王神社、ユニチ力記念館、尼崎城址、築地。

平成二十六年…富松城址、尾浜八幡神社、水堂須佐男神社、七松八幡神社、難波八幡神社、熊野神社、三和市場、貴布禰神社、寺町。



『市報あまがさき』  
フェイスブックのページ  
チラシにて情報公開中



# 子育て・子育て講座

担当部署：総合生涯学習センター



平成十九年に総合生涯学習センターの依頼を受けました。幼児教育学科の特色を生かせる講座をこの意向で、平成二十年に「子育て・子育て講座」を開講しました。

開講当初は、現在の乳児保育室「ぴよぴよ」もない状態でのスタートでした。しかしその後、徐々に受講者も増え、学科としての取り組みとなっていきました。平成二十二年には、乳児保育室「ぴよぴよ」をつくり、幼児教育学科の学生が参加する講座も取り入れながら現在に至っています。



総合生涯学習センターの講座日程にあわせ、前期八回、後期八回、水曜日二時限で実施し、四月一日現在で一歳六か月から四歳の子どもさん八名までを対象としています。

講座ごとにテーマを決めて、幼児教育学科の教員がそれぞれの専門性を活かした活動を提案しています。例えば、食の専門教員と一緒にやっつくりをしたり、造形の専門教員と一緒に紙で遊んだり、幼児体育の専門教員とからだをうごかして遊んだりなどです。

それらを通して、受講者同士が親睦を深められることも継続受講を希望される要因となっています。

幼児教育学科の取り組みとして、本講座の活動は定着してきており、大学が提供できる子育て支援として、魅力ある講座となっていると思います。

今後の目標としては、定員の増員を図るために、保育室の拡大と充実が挙げられます。それに伴い、他学科との連携や専任スタッフの配置なども課題として挙げられると思います。

なお、総合生涯学習センターの公開講座の案内には、毎回の具体的な内容が掲載されています。



# 地域と大学の連携・協働による子ども・子育て支援の 課題解決 — 子育て支援当事者のニーズを踏まえて —

担当部署：人間教育学部 児童教育学科・人間健康学部 総合健康学科・人間看護学科  
連携先：尼崎市子ども政策課・園田地域振興センター・四条畷学園大学



本活動は、平成二十五年九月に、文部科学省によってはじめられた、地（知）の拠点整備事業の「子ども・子育て支援」領域における研究チームとしてスタートしました。メンバーは、人間健康学部総合健康学科、人間看護学科、人間教育学部児童教育学科の教員、計九名で構成されています。昨年度末に開催された子育てサミットでは、運営スタッフとして学生や市民ボランティアの方にもご協力いただき、およそ百名の参加がありました。

平成二十五年度は、尼崎市の子育て支援の実態と課題を調査し、子育ての当事者、市内の支援者、大学教員、学生が双方向的に子育てに関する情報や課題を共有し、解決に向けての連携・協働実践を行っていくために、HP「園女・子育てナビ」を立ち上げました。

平成二十六年度は、園田地区における「ママカフェ（子育てヒギナーズママの集いの広場）」の企画運営に、支所のスタッフと共同して取り組み、定期的に参加しました。また「働くパパの子育て応援サロン」として、本音トークや父親同士の情報交換を行いました。年度末には、「尼崎発！子育て・親育ち応援サミット」として尼崎市内の親子、子育て関係者が一堂に会して体験型セミナーを開催しました。地域の皆さんからも「こんな話、今までしたことがない。なんかすっきりした」「たくさんの子育て支援団体や参加者のみなさんにつながることで、本当に感謝しています」といった反響をいただきました。

今年度は、これまでのイベントや実践から明らかになった様々なニーズのなかから、二つの柱にしぼって

研究を進めています。まずは、子育て支援ひろば「ママカフェ」における母親理解と子育て支援の実態と課題について研究を行います。二つ目は、父親の子育て支援と子育ての主体としての父親の役割に関する研究です。

イベント情報等のお知らせについては、HP「園女・子育てナビ」を通じて行っていきます。

園女・子育てナビ

つながり、学びあう、いきいき子育て支援—地域と大学の協働—

園女「子育てナビ」は、子育て・子育て中のみなさん、そして地域のさまざまな専門家とつながる園田学園大学児童教育学科、人間看護学科の教員が、子育てに関する情報を提供し、子育てに関する課題を共有し、解決に向けての連携・協働実践を行っていくために、HP「園女・子育てナビ」を立ち上げました。

[http://www.sonoda-u.ac.jp/kosodate\\_navi/](http://www.sonoda-u.ac.jp/kosodate_navi/)



## 七夕まつり

担当部署：園田学園女子大学  
生活協同組合  
連 携 先：大阪・兵庫・和歌山  
地域の大学生協



## シグマソサエティクラブ わらべうた研究会

担当部署：人間教育学部 児童教育学科  
連 携 先：国際ソロプチミスト尼崎  
尼崎市こども青少年局児童課



わらべうたは、昔のものと思われがちですが、大人から子どもへ、子どもから子どもへと今も受け継がれています。わらべうたにある言葉の心地よいリズムと温かさが子どもたちを楽しませてくれます。

近年では、わらべうたで遊んだ経験の少ない学生やお母さんたち、保育者たちも子どもとともに遊ぶうちに表情がやわらかくなり、温かい気持ちで子どもと向かい合うことができると注目されています。

このようなわらべうたを学び、子どもたちに伝えていきたいという思

平成七年七月七日に、園田学園女子大学生協が設立されました。

これを記念し、七夕の前後の日、みんなで生協設立をお祝いする意味をこめて「七夕まつり」を実施、毎年継続してきました。

平成二十七年で二十回目を迎えた「七夕まつり」は開花亭食堂ホールを会場にして、ステージと模擬店を企画実施しています。

ステージ企画では、例年交換留学

いで、現在、二十二名の学生が活動しています。週一回、学生たちが調べたわらべうたを発表し、毎年、夏休みに尼崎市内の四から五か所の児童クラブで実践しています。

少ないときでも

十数名程度、多いときには八十人から九十人の子どもたちが参加し、わらべうたを楽しみます。

また十月に開催される、けやき祭



生の紹介・民族舞踊の披露、のど自慢大会やダンスなどを行いました。

模擬店企画では、食事の提供として、唐揚げなどの軽食やドリンク、また茶道部による呈茶や学生会の綿菓子なども販売しました。

今年度は、近隣の保育園や公民館、小学校に広報し、多くの園児・児童・保護者の方も越しいただきました。学内参加者と合わせると、およそ二百五十名程度の方にご来場

では、毎年「親子で遊ぼうわらべうた」として乳児さん向けのわらべうたを親子で楽しんでもらうことを行っています。

今後、遊ぶうたとしてのわらべうただけでなく、音楽としてのわらべうたにも着目し、

わらべうたコーススにも挑戦していきたいと考えています。

いただきました。



チラシの配布や学内掲示でお知らせ！  
ひと月前より学内をチェックしてみてください！！



## 地域に支えられる

### 本学の国際交流

担当部署：国際交流センター

連携先：ニュージーランド、オーストラリア、  
フィジー、インドネシア、台湾、中国、  
韓国の海外提携校7校



## 尼崎市交流協会との

### 協力事業

担当部署：国際交流センター

連携先：尼崎市国際交流協会



本学は昭和六十年代にオセアニア地域の大学と学術提携し、国際交流の基礎を築き、アジア地域との交流にも力を注いでいます。

台湾、ニュージーランド、フィジー、オーストラリアの各提携校から約三十名の短期留学生を受入れ、台湾、インドネシアからの長期留学生も受入れています。短期での受入れでは独自のプログラムを実施し、尼崎市を中心とした阪神地域、但馬

尼崎市国際交流協会と、尼崎市内在大学の一枚として互いの国際交流事業発展のため互いに協力して活動を行っています。短期・長期の留学生をそは打ち体験などの行事に招待してもらったり、本学と合同で実施する市内の見学にも協力をいただいております。留学生たちは、大学以外での体験を喜んでいます。協会の皆様だけでなく、地域の人々との交流もできるので、互いの励みになっています。

尼崎市国際交流協会とは、これまでも合同で、イベントを行って参りました。長期及び短期留学生はもち

地域(豊岡市、香美町、新温泉町)で、地域の皆様との異文化交流を行っており、好評を得ています。また、本学の学生がバディとして、留学生たちと行動を共にし、ESS部やバディたちが中心に交流会や歓迎会の進行役となり親しく交流できる場を設けています。



ろんのごと、留学生達のバディ達も名所旧跡に引率し、交流協会会員の方々により歴史的な説明等をしていただきました。

尼崎市国際交流協会には、他のプログラムの短期受入れ時に地域の紹介のお世話をしていただけることになっています。また、日本語スピーチコンテストでもご協力いただいております。

昨年は、協会主催の交流事業であるバスツアーに短期留学生が参加し、日本独自の体験もして、大変好評でした。また、スピーチコンテストにも参加し、留学生たちは大変満

このほか、尼崎市立小学校を訪問し、日本の教育の視察、先生方との情報交換、児童たちとの異文化交流を行います。ホームステイも体験し、日本語、日本文化、日本人の考え方を学んで日本の理解を深めて帰国します。今後は更に阪神地域の素晴らしさを伝えることができるプログラムを構築したいと考えております。

足をしていました。本年度は少し形を変え、尼崎に特化した、市の歴史・文化についての研修や見学を、協会の協力を得て実施しようと考えています。



## 第3回 世界身体障害者野球日本大会応援

(但馬ドーム)



担当部署：スポーツ振興センター・地域連携推進機構  
連 携 先：兵庫県立但馬ドーム

四年に一度開かれる世界身体障害者野球日本大会が兵庫県立但馬ドームでの開催が決定し、本学と連携のある但馬ドームより、大会への応援要請を受けました。

近隣の学校、少年野球チーム、但馬地域のそれぞれの町から応援団を結成。特色を生かした屋台等の出店もあり、地域が一体となって大会を盛り上げ、十一月一日・二日の二日間にはわたって熱戦が繰り広げられました。

本学からは、テニス部、ソフトボール部、卓球部の二、三年生部員と、総合健康学科四年の計二十六名がボランティアとして参加、二日間にわたって大会運営や応援に携わりました。

障害者スポーツの普及・発展および生涯スポーツの啓蒙に寄与し、同じ障害をもつ人々に勇気を与えるだけでなく、健常者に対しても「スポーツの素晴らしさ」や「努力することの価値」を再認識できる場となりました。

ソフトボール部の学生は少年野球チームと一緒に各国チームの応援。テニス部、卓球部の学生は開会式の来賓接待と受付業務に携わった。

日本、アメリカ、韓国、台湾、ブルトリコの五カ国総当たりで試合



が行われ、優勝はアメリカ、準優勝日本、三位ブルトリコの結果でした。学生は携わった業務をしっかりとした対応、個性ある応援で選手たちの素晴らしいプレーと諦めぬ闘志を引出し、感動をより一層大きなものにすることができました。

閉会式後、兵庫県但馬県民局長、県立但馬ドーム館長より、ねぎらいの言葉をいただきました。

学生は野球というスポーツを通して国際交流と相互理解の促進、身体障害者スポーツの普及・振興への寄与、スポーツの「尊さ」「価値」の考察・啓蒙による共存社会の実現に寄与することができました。また、学生一人一人に選手や関係者から温かい言葉をかけてくださったことにボランティア活動として十分意義がありました。あらゆる年代の人々、立場の人々が熱戦を観戦することで社会的にインパクトを高め、身体障害者スポーツの普及と発展に役立ちました。



## ソフトボール

担当部署：スポーツ振興センター



ソフトボール部では、毎年多くのスポーツ教室を行っています。スポーツ教室は幼児から小学生、中学生、さらには高校生と幅広い年齢を対象としています。幅広い力テゴリーではありますが、ソフトボール部員が、ソフトボールの楽しさを伝え、普及につとめています。尼崎市をはじめ、京都府中体連や西宮市、豊岡市（但馬ドーム）など、様々な

ところで活動を行っています。この活動は長年続いているので、多くの方から好評を頂いています。今後もし引き続き、活動を続けていきたいと思えます。またソフトボールのオリンピックへの競技としての復帰のためにも、普及活動として活動を広げていきたいと考えています。



## 幼児の体力測定

### 陸上競技部

担当部署：陸上競技部  
連携先：尼崎市スポーツ振興事業団



年々子どもの体力が低下しているとの報告がある中、尼崎市スポーツ振興事業団主催の幼児の運動能力調査が三月二十四日から三日間、市内の六カ所の体育館で実施されました。事業団のスタッフとともに本学の陸上競技部員三十名がボランティアとして幼児の測定を行いました。普段、ふれ合う機会の少ない幼児に接することで、学生はコミュニケーション能力アップの勉強となりました。

た。ウォーミングアップ時の体ほぐしと立ち幅跳び、体支持持続時間、25m走、両脚連続跳び越し、ボール投げ、捕球の六種目の測定を実施しました。元気に測定に参加する幼児の姿に昔の自分を思い出す学生も多数いました。

試合や練習で頻繁に使用する尼崎記念公園陸上競技場を管理する尼崎市スポーツ振興事業団と陸上競技部

は繋がりが深く、今後もボランティアの要請があれば積極的に参加したいと思っています。学生にとっても、学びの場となっており、地域の方と接する貴重な時間ともなっています。

イベント情報は、尼崎スポーツ振興事業団ホームページから各体育館のページに掲載しております。



## チアリーディング部の 地域での活動

担当部署：学生支援部学生課  
チアリーディング部顧問



## テニス

担当部署：スポーツ振興センター  
連携先：兵庫県立但馬ドーム  
尼崎スポーツ振興事業団



テニス部は学内に留まらず、地域連携活動に数多く携わっています。

「園田学園テニスクリニック」  
テニス部OG会と尼崎市テニス協会の協力のもと開催しています。テニス部が担う役割は、指導補助と運営補助の大きく二つがあります。指導補助は先輩方の指示に従います。運営補助については、一日だけのイベントを開催するためにしなければならぬ準備の多さに気づくことも、予想外の状況に陥った時の瞬時の判断と行動を求められました。

平成十八年、チアリーディング経験者は一名ながら、総合健康学科の同級生を中心に創部しました。チアリーディングの競技力を高め、そして社会人アメリカンフットボールチームの専属チアをつとめながら、「人を明るく気持ちにし、勇気づけ、元気づける」チアリーディングの精神で多くの人に、笑顔、勇氣、元気を届けるうちに、様々なイベントから応援や演技の依頼をうけるよ

「尼崎スポーツフェスティバル、ジュニアテニス教室」

尼崎地域および本学近隣の小学生および中学生に対して、単純に体を動かすことやテニスをするのではなく、飽きてしまうので、毎回アイデアを用意してから指導に臨みます。子供たちの集中力持続が課題ですが、よりテニスに集中させるため、指導内容にゲーム的な要素を含んだり、ペースを速めたりすることが厳しい状況を作り出すことの重要性に気づくことができました。

うになってきました。



活気あふれるパフォーマンスで観客を魅了することを目指し、多くの方を元気に、そして笑顔にできるよ

これらジュニアへのボランティア

指導経験する中で、子供達が理解出来るように表現することの難しさを知り、自分自身の学びをより深めるきっかけとなっています。多くの方との交流やコーチングを通じて、自分自身の歩んでいる道は正しいと、自分を見つめなおす機会ともなっており、自信を持てる瞬間を感じています。

う、地元尼崎を中心に今後も活動していきます。

**活動目標**：「活気あふれるチアリーディング・パフォーマンスで観客を魅了する」  
**出演・演技**：阪神南ふれあいフェスティバル・尼崎青年会議所五十五周年記念事業「あまテラスサカス2014」・塚口バル・社会福祉法人福成会の清流園祭・大庄まつり・神戸まつり・神戸みなとまつり・神戸みなとマルシェ・子供たちにチアの楽しさを教えるキッズチアなど。

**応援**：地元のVチャレンジャー兵庫ブルーファイターズ第三回、四回大阪ラソン道応援イベント「ランナー盛上げ隊」・富士通女子バスケットボール部レッドウェーブ・サマーナイトラン大会など。

## 尼崎公設地方卸売市場

担当部署：短期大学部 生活文化学科  
国際食文化コース  
連携先：尼崎公設地方卸売市場



## 梅スイーツ

担当部署：短期大学部 生活文化学科  
国際食文化コース  
連携先：和歌山県田辺市役所  
産業部梅振興室



田辺市産業部梅振興室より、梅干しを使用したスイーツの制作依頼があり、平成二十三年度より本学のコラボ企画として取り組んでいます。

平成二十六年三月に協定書が締結され、国際食文化の学生、教員でスイーツ(焼き菓子)を制作し、レシピにまとめ、田辺市の菓子店で販売することを最終目標に掲げています。

毎年三名から四名の学生が携わっ

尼崎市地方公設市場より、季節のフルーツを使用したスイーツレシピ企画のお話があり、生活文化学科(国際食文化コース)の教員と学生が毎月、旬のフルーツや野菜を使用したスイーツの提案する活動を行っています。参加学生は毎回三名程度で、季節のフルーツや野菜を再認識するいい機会になっています。

前月に旬の食材を決め、どのよう

てきました。梅マドレーヌ、梅タルト、梅のプッセ以上の三点を制作し、商品化を行いました。平成二十七年年度末に、今まで制作した三点のスイーツレシピを田辺市側に提供して、活動は終わります。

田辺市産業部梅振興室が主体となり、本学にて製作したスイーツをけやき祭(本学学園祭 平成二十六年十月)、JANA南紀のイベント会場

な形にするのが提案し合い、内容を決定します。夏はムースやゼリーなど、冬であれば温かい飲み物に合うタルトや焼き菓子など季節感を取り入れたスイーツを制作しています。何度か試作を行い、レシピにまとめ、完成品の写真や学生からのアドバイスを卸売市場に送り、尼崎市地方公設市場のHP「市場×大学」のコーナーで、公開されています。

(東京 晴海 平成二十七年一月)にて販売するなど、ケーブルテレビや新聞などのメディアに取り上げていただきました。

試作段階で田辺市の方に何度か試食してもらい、感想を直接聞く機会がありました。中には厳しい内容もありましたが、学生にとっては多くの人から満足を得ることがいかに難しいものか体験できたと思います。

旬の食材を扱うことにより、食材本来のおいしさを知り、それらの長所を生かしてどのような形のスイーツに変えるかが、この取り組みの根源になっています。今後は食材の産地、品種などにもこだわりをもち、活動していきたいと思っています。



## 尼藩のスイーツ開発委員会

担当部署：短期大学部 生活文化学科  
国際食文化コース  
連 携 先：尼藩の特産品開発協議会



## Super Sweets 2014 in Amagasaki

担当部署：短期大学部 生活文化学科  
国際食文化コース  
連 携 先：Super Sweets 2014 in Amagasaki



平成二十五年から「スイーツの町尼崎」として、産官民が合同で「Super Sweets in Amagasaki」のイベントが開催され、短期大学部 生活文化学科 国際食文化コースの学生がお手伝いをしています。平成二十六年度も十一月二日に都ホテルニューアルカイクで開催され、イベント参加者は約四百名でした。

当日は、日本で有名なパティシエも

本事業は、尼崎商工会議所や尼崎市農政課などとの連携事業であり、尼崎の伝統野菜である「尼いも」を活用した特産品の開発、製造、販売を趣旨として進めています。平成二十五年からは、いものツルを使用した佃煮が完成し、大変好評を呼んでいます。

スイーツは未だ完成に至っていませんが、本年度の会議で、製品にす

数名招聘され、トークショー、ケーキ講習などでご指導いただき、学生たちは有名なパティシエを目前に少し興奮気味で、製菓を目指す学生には大変良い経験となりました。

その他には、親子ケーキ教室、大人のケーキ教室、マジパン体験教室などの助手として、またケーキサロンでは接客のお手伝いなどで大変活躍しました。更に焼き菓子コンテストにも参加

る前に、「尼いも」を知っていたたぐ為のレシピ開発を急ぐことになりました。レシピを使用して各家庭や給食に使用していただく様になればと奮闘中です。

いきいきマルシェ、武庫祭り、尼いも奉納祭や農業祭など、尼崎市の数々のイベントで販売を行っています。平成二十六年の尼いも奉納祭では、尼いもパウンドケーキを一個百

しました。学生にとって、本イベントは社会での実践教育として大変良い機会であるので、今後も依頼があればイベントへの出展やお手伝いに参加したいと考えています。



円で販売し、瞬く間に完売しました。

今後は、尼いもの周知に一層努めることを重視し、先に示したようにレシピの開発を目指します。



# 尼芋奉納祭

担当部署：学生地域連携推進委員会(つなGirl)・地域連携推進機構  
連携先：尼いもクラブ



尼崎の特産品「尼いも」を復活させて市民に広めている「尼いもクラブ」より、平成二十六年十月二十六日(日)、尼崎貴布禰神社にて行われる「尼芋奉納祭」での祭事司会や焼き芋無料配布、こども対象芋掘りの補助などの要請がありました。

学生地域連携推進委員会(つなGirl)の初代委員長は「尼いも」について、スイーツの開発を進めている本学の川原崎教授にお話を伺った。尼崎市の農政課を通じて取材をしたりしており、芋の植え付けや水撒き、芋掘りのお手伝いなどをしていただくことから、つなGirlのメンバーで要請された内容のお手伝いをするこゝととなりました。

学生の一  
人が巫女に  
扮し祭事の  
司会を務



め、奉納祭終了まで巫女姿のまま抽選会の案内や抽選券の配布などを行うと来場者の反応も良

く、会場を賑わせることができました。焼き芋の配布も準備からお手伝いをし、火のそばで暑い中、多くの方に尼いもを味わっていただくことができました。芋掘り体験もそれぞれ声かけをしながら子どもたちと過ごす時間となりました。

また、学生が発案した「尼いも栽培キット〜みんなで尼いも。〜」について来場者にアンケートを行うと、昔食べていた方からのお話や栽培に関するノウハウをご教示いただき、参加学生にとって地域の方々と触れ合う貴重な時間となりました。

この他にも、尼芋演芸会(でやしきのおちけん寄席や尼いもトーク)が行われ、その周りでは尼いもカリーや尼いも入り善哉、お抹茶と尼いもタルトなども食すことができました。前掲の川原崎教授と国際食文化コースの学生で作成した「尼いものパウンドケーキ」も販売され、飛びように売れていました。

平成二十七年度は、つなGirlでひとつのブースを担当することが決まりました。「尼いも」を盛り上げる応援団として活躍できるブースになるようメンバーで話し合い、楽しいブースになるよう努めます。



尼芋奉納祭などの情報を公開  
「あまけん」ホームページ  
<http://www.amaken.jp/>



# 尼崎浄水場特別開放イベント



担当部署：人間健康学部 食物栄養学科  
連携先：尼崎市水道局

臨地実習でお世話になって臨地実習のご紹介で、平成二十六年五月、尼崎水道局からご依頼がありました。



食物栄養学科三、四年次生の栄養教諭を目指す学生が中心になって準備を行いました。水道局の提案される「飲育」に関連して、子どもたちに身体の中での水の大切さを伝えるために、水道局オリジナルのキャラクターを登場人物にした紙芝居を創作しました。

六月に浄水場開放特別イベントが実施され、当日の暑さやキャラクターショーにも負けず、紙芝居を何度か披露し、子どもたちを惹きつけていました。本活動は水道局のホー

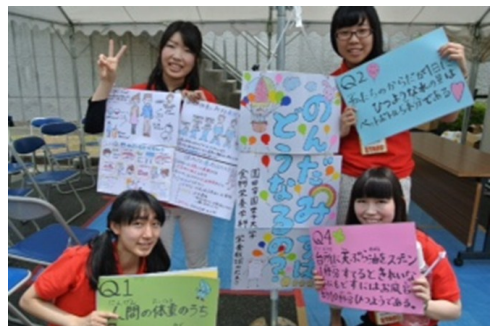
ムページにも紹介をしていただきました。

平成二十七年度は、直接水道局からご依頼がありました。イベントへの参加を他にも広く声かけするために地域連携推進機構を通して行っていたいただきました。再度参加する機会をいただきましたが、今年度は実習で忙しい四年次生に代わって、栄養教諭を目指す三年次生七名が参加しました。活動内容は、昨年先輩たちが作成した紙芝居をもとに、新た



にクイズを追加作成しました。

浄水場特別開放イベントは、六月初旬に開催されています。イベントに対して十分な準備を行って参加するためには、二、三年次生が中心になって活動を行っていく方がよいかと思えます。子どもたちがたくさん来場するイベントですので、教職を目指す学生にとっては、子どもに接するよい経験になっています。



# みんなのサマーセミナー



担当部署：地域連携推進機構  
連携先：みんなのサマーセミナー実行委員会

市民同士が教え合えるような「学び」をテーマとしたイベント「みんなのサマーセミナー2015」の開催をめざして、「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトに掲げて開催いたしました。

本学からは生涯学習と地域連携の立場から有志で組成した任意の団体に参加をいたしました。

尼崎らしい「学び」とするべく、市内で官民により提供されている講座等を持ち寄り、さらに、市民のみなさんが培ってきた知識や経験を伝える機会となりました。

場所：百合学院中学高等学校  
日時：平成二十七年  
八月八日（土）

九月一日（日）晴天

総講座数：百七十講座

受講数：約三千人

皆勤賞：二十五人

（二日間1～4までの全授業に参加）

尼崎に関わる様々な方々に講師になつていただき、得意な講座を持ち寄ることで、みんなが参加しやすい学びの場（学びのフリーマーケット）をつくっていきます。

講座を実施する側にとっては、様々な人や団体と知り合うきっかけとなることや、普段の活動の周知につながることも、また、講座を受講する側にとつては、一同に講座が展開されることで、通常あまり参加しな



いような学びに触れるきっかけとなること、新たな興味・関心がうまれることなどが期待されます。また、

普段教える側にならない人が教える側となる場をつくることで、さらに自身の学びを深められることも期待できます。



このイベントを通して、市民の知的好奇心を喚起し、尼崎の地域や社会への関心を高めるとともに、講座提供主体の相互連携や新たなつながりを創造し、学びの輪が広がることで尼崎の魅力を高め、ひいては地域の活性化を図るきっかけとしていきたいと思えます。

# 大学COC事業における政策提言発表会

担当部署：全学共通科目「大学の社会貢献」受講生  
人間教育学部 児童教育学科 大江ゼミ  
連携先：尼崎市・兵庫県立大学



平成二十七年二月十三日(金)、尼崎市立教育総合センターにおいて、「大学COC事業における政策提言発表会」が行われました。

尼崎市長稲村和美氏、副市長村山保夫氏を前に、尼崎市内をフィールドとして大学COC事業を実施している園田学園女子大学と兵庫県立大学の学生が、それぞれ市の課題解決にむけての政策提言を行いました。当日は、行政や大学関係者、それぞれの取り組みに関わった地域の方々を含めて、八十名以上の参加者がありました。

本学からは、平成二十六年度「大学の社会貢献」科目における優秀賞（尼崎市長による表彰）と児童教育学科大江ゼミが発表を行いました。

「大学の社会貢献」の発表の一つは『学ぶまち尼崎』（人間看護学科・吉田ほなみ・関本芽久・千葉佳菜、総合健康学科・阪木志帆・園田夕紀子・田中美帆）です。市の課題

である「学校教育」と「塚口さんさんタウンの空きスペースの活用方法」に取り組み、子どもたちが前向きに勉強に取り組めることのできる環境を、地域・教師・学生・ボランティアが一緒になってつくる企画の提案でした。もう一つは「人でにぎわう公民館」（総合健康学科・小笠原美奈・館舞華・田中虹河・久戸くるみ・仲里すみれ、人間看護学科・井筒杏、食物栄養学科・林玲菜）。「尼崎市公民館グループ」への部門別登録者数において、年齢層や性別に偏りがある現状を課題と考え、より多くの市民に公民館を利用するきっかけを与え、なかでも若者の利用を促進するために、市民が求める「望み×望みプロジェクト」を提案しました（大江ゼミの提案は十四ページを参照）。

同士による積極的な質疑応答が交わされたほか、参加された地域の方々からも多くの意見が寄せられました。尼崎市長からは「企画→実践→振り返り→改善やバージョンアップ、といったサイクルを経験することが重要」であるとの指摘をいただきました。



## 塚口バル(舞台イベント)

担当部署：法人本部企画統括室  
連携先：塚口バル実行委員会



阪急塚口駅を中心とした飲食店の有志が、実行委員会を立上げ、地域活性化のために舞台イベントを含むバルを計画されました。尼崎商工会議所、尼崎地域産業活性化機構等もサポートしています。本学園としては、その舞台イベントへ参加することにより、地域とより密着した有機的な関係を構築することを目的としています。

平成二十七年度は園田幼稚園園

多数、記事の取材体験をさせてもらっています。

また商工会議所が取り組んでいる「尼食倶楽部プロジェクト」の一環として、伝統野菜「尼いも」の商品開発でも連携し、「尼いも」スイーツの開発や農作業の体験を行っています。

尼崎商工会議所のスローガンは「企業と人が活きつく街は、美し

い、中・高クラブ（放送部、モダンダンス部、バトントワリング部、吹奏楽部）の約百名が、司会、演技、演奏を披露いたしました。観客の方々から拍手やかけ声などをいただき、園児・生徒の今後の活動への励みにもなりました。また大学生は、ボランティアとして裏方で活躍しました。

今まで同様、課外活動等の発表の場や地域における本学園の教育活動

い」です。本学の学生に、女性の視点から、商店街・市場などの活性化に向けて、お手伝いをして欲しいと期待されています。

今後、本学の研究のシーズをふまえて、尼崎における「食ブランド」の確立や、企業に対する「健康づくり」支援など学生の経験値を高める連携事業を推進していきたいと思えます。

の一端を紹介しながら、保護者や同級生、友人など関係者が集うことにより、バルへの参加も促し、地域の活性化への協力も図って行くことを目標に考えています。



毎年四月に開催。詳細はバル参加店舗や塚口駅周辺のポスター、駅前等での配布チラシをご覧ください。

## 尼崎商工会議所との連携

担当部署：地域連携推進機構  
連携先：尼崎商工会議所



平成二十二年六月に、学校法人園田学園と尼崎商工会議所が地域活性化の取り組みに関する連携協定を結び、以後、継続して連携事業を推進しています。平成二十四年度からは、商工会議所でのインターンシップや会報誌「あくしい」の記事の取材などの社会体験プログラムも実施、また市民向けの情報誌「あまがさきタイムズ」でも、本学の学生が



## 第28回ひょうご女性 未来会議inあまがさき

担当部署：地域連携推進機構  
連携先：ひょうご女性未来会議  
inあまがさき実行委員会



## 第2回 未来を拓く自治と協働 まちづくり「尼崎」研究集会

担当部署：地域連携推進機構  
連携先：同実行委員会  
(尼崎市・尼崎市教育委員会  
・飯田市・飯田市教育委員会)



「ひょうご女性未来会議」は様々な分野で活躍する県内の女性たちがネットワークを広げ、新しいライフスタイルの実現を目指していく集いで、定期的に開催されています。

今回は「未来をになう子どもを育てるために」と題し尼崎での開催となりました。本学は会場を検討されていた、ひょうご女性未来会議うあまがさき実行委員会から会場校とし

成熟社会・日本における、持続可能な地域・コミュニティに求められるものを探る研究集会で、平成二十五年の長野県飯田市に続き二回目を、本学を会場として平成二十七年二月二十一日・二十二日に開催されました。多様化し、複合化する地域の課題に対して、数多くのセクターが連携・協働して解決にあたるため、学習や学びを見つめ、経験から学ぶ行動する人があふれる、地域社会の再構築について二百名をこえる参加者が熱心に議論しました。

第一日は、稲村和美尼崎市長の基調講演「人生のスイッチが入る尼

崎の実現を目指して」のあと、大江篤地域連携推進機構副機構長が本学COC事業を報告、木下巨一(飯田市)・牧野篤(東京大学大学院)・船本成記(尼崎市)の鼎談がありました。その後、①地域に学ぶ行政職員像を探る、②地域の学びを支えるパートナーシップを考える、③若者やよそ者が地域と関わることで生まれる学びとは、④まちづくりと遊びと学びのいい関係を探る、⑤学校と地域の関係構築を探る、⑥学習する地域の構築をめざして、の六つの分科会が開かれ、分科会③で本学学生が地域で学んだ成果を報告しました。

て依頼を受け、平成二十七年五月三十日(日)開催、兵庫県知事や尼崎市長をはじめ百四十名近くの来場者が来られ、大変盛会となりました。

会場校として、本学を紹介できる時間を設けていただき、「近松人形劇部」が「日本振袖始」を披露、「学生地域連携推進委員会(つなげようーめざせーつながり100ー」

を発表しました。

緊張しながらも学生から直接、自分たちの活動をPRでき、学生たちにとって、知事とお話しできたことは実りある時間となりました。

第2回 未来を拓く自治と協働の  
まちづくりを目指す研究集会 尼崎大会

～連携先：日本に学ぶ、持続可能な地域づくりを学ぶ～

21日(祝)22日(祝)の2日間、10時～17時

本学は、地域連携推進機構が主催する「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会」の開催地として、2025年2月21日(祝)・22日(祝)の2日間、尼崎市と飯田市を会場とする「尼崎大会」を開催いたします。本大会は、地域連携推進機構副機構長が本学COC事業を報告し、飯田市、東京大学大学院、尼崎市の3市がそれぞれ自身のまちづくりの取り組みを報告し、鼎談を行います。また、地域に学ぶ行政職員像を探る、地域の学びを支えるパートナーシップを考える、若者やよそ者が地域と関わることで生まれる学びとは、まちづくりと遊びと学びのいい関係を探る、学校と地域の関係構築を探る、学習する地域の構築をめざして、の6つの分科会を開催し、本学学生が地域で学んだ成果を報告いたします。

平成27年2月21日・22日 入場無料

開場時間：2025年2月21日(祝) 10時～17時  
22日(祝) 10時～17時

開場場所：開場時間：2025年2月21日(祝) 10時～17時  
22日(祝) 10時～17時

申込先 <http://www.formzu.net/dst/549097270/>

申込期間：2025年1月24日(土)～2月10日(水) 18時迄

申込受付：2025年1月24日(土)～2月10日(水) 18時迄

申込受付：2025年1月24日(土)～2月10日(水) 18時迄



## 猪名寺 万葉の森・佐璞丘 再生プロジェクト

担当部署：人間教育学部 児童教育学科 大江ゼミ  
連携先：猪名寺自治会



## 「播州こしひかり飯見の郷」 米袋デザイン

担当部署：短期大学部 生活文化学科  
情報デザインコース



猪名寺自治会と本学との取組みは、平成二十二年度からであります。研究会「まちづくり解削学」での自治会長内田大造さんの発表をきっかけに、猪名寺の「夏祭り&盆踊り」でオリジナルのうちのデザインを製作したり、街歩きガイドや餅つき大会等の行事にボランティアとして学生が参加しました。平成二十七年度は、大江ゼミの学生が「万葉の里、猪名寺忍学校」に参加し、一年を通じて、忍者をキーワードに猪名寺の自然や歴史、暮らしを子どもたちに伝承する活動を行っています。平成二十七年五月に

兵庫県赤粟市波賀町飯見地区では、平成十七年四月に「飯見夢むら棚田の会」を結成し、今回、十周年記念として、棚田で作られたブランド米「播州こしひかり飯見の郷」の米袋をデザインすることになりました。

平成二十七年一月に米袋デザインの公募が始まり、飯見夢むら棚田の会代表の方からの呼び掛けがあり、生活文化学科情報デザインコースで取り組むことになりました。

二年生の萩野彩さんはイラストレーターというデザインソフトを利

内田自治会長さんに街を案内していただき、五月三十日に入学式、と「変身術の巻」を実施。手裏剣と刀をつくり、佐璞丘で活動しました。七月十一日には、「自然術の巻」を実施し、木登り・綱渡り・的あて・犯人をさがせ・暗号を送れを行いました。十月二十四日には「歴史術の巻」で本学学生が、「忍者の秘密クイズ にんにん」「猪名寺の暮らしクイズ 1、2、3」「猪名寺の歴史 巻物(宝)さがし」を実施する予定です。十一月十四日には卒業式を行います。このほか、尼崎市立園田北小学校との連携で登下校の

用し、何度も検討と試行を重ね、デザインを作成しました。最終三パターンを応募し、その中の「高級感・ブランド感を表現するためモノトーンでまとめ、棚田の真珠とも呼ばれていることから真珠をイメージして丸をいくつか配置したデザイン」が採用されました。

そして平成二十七年十月三日、道の駅みなみ波賀で行われた収穫祭にて米袋の披露・表彰が行われました。収穫祭では一袋三十キロの米が予定時間よりはるかに早く一時間余りで売り切れる人気でした。

見守りの地域の方と児童を結びワッパンの制作にも取り組みます。



このデザインは非常に好評で、当初千枚分を印刷しましたが農家からの申し込みが多く、追加でさらに千枚印刷されたそうです。このデザインはこれからも多くの飯見のみなさんに愛されていくことと思います。

## つなGirl

### (学生地域連携推進委員会)

担当部署：地域連携推進機構  
連携先：尼崎青年会議所・あまがさき環境  
オープンカレッジ・他多数



## 震災への取り組み

担当部署：地域連携推進機構



一月十七日(阪神淡路大震災)

三月十一日(東日本大震災)

九月一日(関東大震災)

十一月五日(津波防災の日)

「稲むらの火(いなむらのひ)は、嘉永七年十一月五日安政南海地震が発生し、北海道・東海道を大津波が襲いました。このとき、紀伊国広村で濱口梧陵が自分の田の稲藁に火をつけて津波の襲来を知らせ村人を避難させたという実話は地震後の津波への警戒と早期避難の重要性、人命救助のための犠牲的精神の発揮を説いています。」

(津波防災教育センター稲むらの火の館資料から転載)

学生会の中の委員会として平成二十六年四月に発足、愛称は学生と地域をつなげる「女子大生」という意味から「つなGirl」となりました。(つながつて、まきこんで、楽しんで、笑顔が生まれて、またつながつてをコンセプトに活動しています。

「まちの相談室」を地域連携推進機構と共に開室し、地域のイベント情報や学生へのボランティア募集情報などを収集し、学生へ情報の発信をしています。

毎週、昼休みに会議を開き、まちの相談室で受け取った情報を共有し発信方法を考えたり、企画イベント

本学の建学の精神である「捨我精進」に通じるものがあり、十一月に

自分たちを守ることに主眼を置いて避難訓練を行っています。また、三月には震災を考える場として講演会や研究発表会を行っています。一年に二回の行事を通して自分たちをかえりみる、他者の思いに心を寄せるという機会を持っています。

全学避難訓練は、庶務課と学生支

などの運営内容を決めています。

昨年、尼崎青年会議所が主催した「あまテラサカス」では地域の方たちに支えていただきながら初めてのイベントを楽しみました。今年の「カエルキャラバン」では防災を意識したブース「つなラジ」で子どもたちに災害時でのラジオの有用性を伝えました。自分たちが考えた内容で子どもたちや参加者が楽しんでくれることへの充実感を味わいました。あまがさき環境オープンカレッジからは「エコあまフェスタ」を含めたくさんのイベント情報をいただき、つなGirlが学生を集めてポラン

援課が中心となっておこない、全学

アンケートを通して短時間で高効果が得られるよう次年度につなげていきます。一方、地域連携推進機構は、まちづくり解剖学特別編として講演会、研究発表の場を設け、教職員、学生、一般市民が一堂に会し、東日本大震災や防災について考える日を設けています。

ティアとして参加しました。

平成二十七年三月には塚口さんタウンにて、今までつながつた方たちや新たな地域の方たちと楽しめるイベント「つながるパラダイス」を企画運営し、ハイコムに出演したりしました。学園祭では、「キッズフェスティバル」を開催して百名近くの子どもたちの参加を促し学園祭を盛り上げていきます。





一ノ瀬 沙佳 3年次生  
食物栄養学科  
京都府立東舞鶴高等学校出身

## 尼崎浄水場特別開放イベント



去年、先輩が当イベントにボランティアとして参加しており、地域の方との距離が近く良い体験ができたこと聞き、今年も声をかけていただいたので参加させていただきました。

去年、先輩が行った際に使用した紙芝居に、自分たちがO×クイズを用意しました。実際にボランティアに行くとは本場に地域の方との距離が近く、自分たちの紙芝居やクイズに

反応してくれるのが嬉しかったです。また、紙芝居より参加型のクイズの方が子どもたちも楽しんでくれたので、また機会があったら生かしたいと思います。

今後「食」に関して発していく機会を増やし、地域の方との触れ合いや協力することを大切にしていきたいと感じています。

河村 衿奈 3年次生  
総合健康学科・角田ゼミ  
園田学園高等学校出身

## 養護実践研究会 Smiles



夢を叶えるため、同じ夢をもった先輩や同期の仲間と多くの知識や経験を身に付け、モチベーションを高めたいと思い参加しました。

Smilesの活動は将来の励みになる活動です。小学生に保健指導を行った際は、準備に時間がかかり大変な思いをしましたが、模擬授業では味わうことのできない子どもたちの反応が新鮮でした。参加後は、仲

間との友情も深まり、より今後の活動への取り組みに力が入りました。また、実習を控える者はモチベーションを高めることができました。

私たちは保健指導を通し、地域の人たちの健康と繋がりをもちたいと考えます。活動は、私たちの励みにもなるので活動の場を増やし、大学生活を充実したものにしたいと思います。





# 学生の声



**中屋 明日香** 3年次生  
 総合健康学科・衣笠治子ゼミ  
 兵庫県立須磨友が丘高等学校出身  
**尼崎市立衛生研究所主催**  
**子ども宿題研究所**



ゼミの取り組みの一環である庄下川の親水性の向上の研究に携わる中、小学生の自然や科学の興味を知るため参加しました。

普段は小学生との関わりが多く、中学生との関わりが新鮮でした。子どもたちとの交流はもちろんのこと、研究所の方とのコミュニケーションをとる難しさも学び、新しく出会った人と活動する難しさを痛感

**藤本 あおい** 3年次生  
 児童教育学科・門脇ゼミ  
 兵庫県立明石西高等学校出身  
**シグマソサエティクラブ**  
**わらべうた研究会**



高校時代に参加したオープンキャンパスで先輩とお話したことがきっかけで入りたいと思いました。

毎週、メンバーで集まり、調べたわらべうたを発表・研究しあいます。わらべうたは地域や歌う人によって全然違うので、毎回「いろいろ奥が深い！」と感じます。毎年、夏休みに地域の児童クラブでわらべうたをおこなうときには、子どもた

ちとの関わりがとにかく楽しいです。将来、教師や保育者を目指している私たちにとって、遊び方の説明や言葉がけなど学ぶことがたくさんあります。

実習や就職で子どもたちと楽しめるように、マスターしたわらべうたで、一人ひとりの子どもにあった遊びが展開できるように技術を高めたいです。

しました。

今まで大学の近くに「環境について」学ぶ良い機関があることなど知らなかったため、これから、もっと地域の施設などを知り、より自分の勉学のヒントとして活用していきたいと思えます。



# 経験値評価システムの活用

担当部署：地域連携推進機構



**地域活動の手引き**  
—経験値評価システムの活用—

地域で学ぶことが、  
地域に貢献できることにつながる。この  
経験値評価システムが、地域活動の  
実施をサポートし、評価・記録する  
ことができるようにする。  
地域で学ぶ「知識」を  
活かせることができる「経験」へと  
変える。「経験値」を高く得よう。

**活動への参加は自己責任・自己管理です**  
自己の健康状態や体力、周囲の状況などを確認し、無理をしないように注意してください。  
参加の際は必ず、保護者、指導員など信頼できる大人と一緒に行ってください。  
活動中に怪我や病気、事故などが発生した場合、自己責任で対応してください。

**活動の目的を把握し、行動しましょう**  
活動の目的や内容、実施の場所、時間などを事前に把握し、行動できるように準備してください。

**活動内での振舞いをよく観察、ふまねは必ず守りましょう**  
活動中は常に周囲の状況や安全を確認し、ルールやマナーを守って行動してください。

**経験値を高く得よう**  
「自分から進んで取り組む」「協力し合う」「積極的に発言する」などの行動が経験値を高く得ることに繋がります。

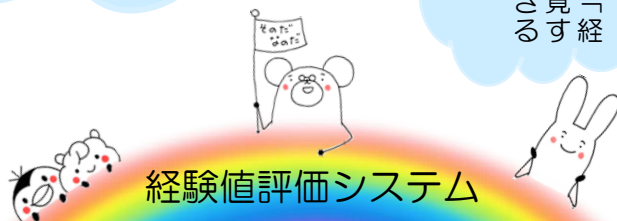
**プライバシーを守りましょう**  
活動中に撮影された写真、動画などは自己責任で管理してください。

**地域活動は必ず安全で実施しましょう**  
参加の際は必ず、保護者、指導員など信頼できる大人と一緒に行ってください。  
活動中に怪我や病気、事故などが発生した場合、自己責任で対応してください。

**\*地域活動の手引き\***  
学生に配られる経験値評価システムを活用するための手引き

**\*経験値評価\***  
学生に地域活動  
情報を提供し大  
学が地域と共に  
評価する

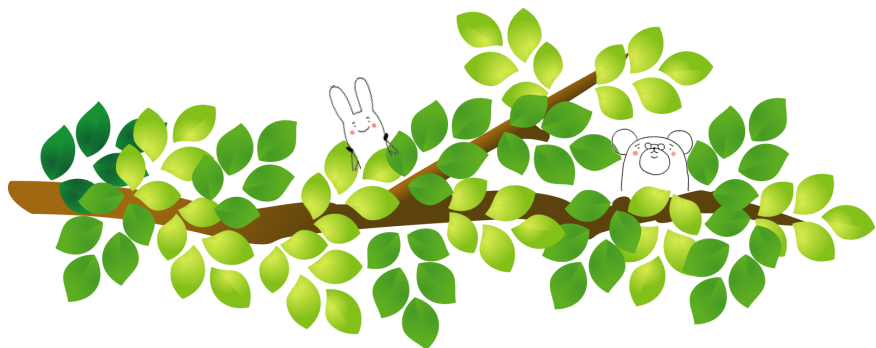
**\*経験値評価システム\***  
学生が自ら「経験値」を自覚することができるシステム



## 経験値評価システム



情報



## 編集後記／地域連携推進機構より

『「そのだ」の地域連携』も四号目を迎えました。三号では四十一の地域活動を掲載しました。四号では四十七活動の掲載となりました。本学の地域の方々との関わりが少しずつですが着実に広がり、それをここに残すことができました。この広がりをもとに経験値評価システムを活用し、学生の地域活動に対する地域の方からの評価をいただける形ができました。地域の方からは、お礼や激

励、助言などもいただき、学生にとって今後の活動の大きな力となっています。平成二十五年度に採択されました「地知の拠点整備事業」も五ヶ年のうちの三年目となり、平成二十八年度には「つながりプロジェクト科目」がスタートします。これにより学生が地域に出ていく機会がさらに増えます。これからの地域の方々との関わりがより深いものとなりますことを願っています。

〈奥付〉

平成二十七年十月発行

発行所 園田学園女子大学地域連携推進機構

住所：〒661-8520 尼崎市南塚口町七-二十九-一

電話番号：06-6429-0621

ファックス：06-6422-8526

メール：chikienkei@sonoda-u.ac.jp

編集人 北恭子 岡本真生 小畑好



経験値教育

**園田学園女子大学**  
園田学園女子大学短期大学部

地域連携推進機構

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1

Tel : 06-6429-9921

Fax : 06-6422-8523

E-mail : [chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp](mailto:chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp)

ホームページ : <http://www.sonoda-u.ac.jp/chiki/>